

よくある質問



- 車いすに乗っている子どもの座席はどこにしたらいいのでしょうか？ →①②
- 机はどんなものを用意したらいいのでしょうか？ →③
- 教室内の配慮には、どのようなものがありますか？ →①②③

ヒント① 基本的な考え方

交流先の教室では大勢の子どもたちが学んでいます。また指導者も一人であることがほとんどです。

そのため、特別支援学級から子どもを引率すると、授業の妨げにならないようにと遠慮を感じる指導者も少なくないようです。

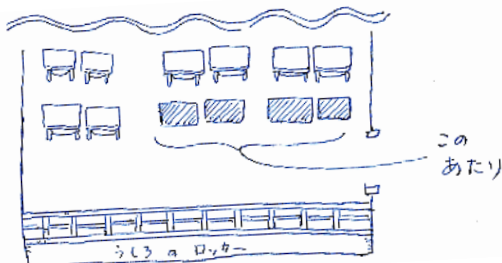
しかし、特別支援学級の子どもも授業に参加するからには、授業内容を十分に習得する権利があります。そのための環境づくりは必要です。

特別支援学級の担任が対応を一手に担うのではなく、授業を主となって進める交流先の学級担任と話し合い、分担しながら、教室環境を整えていく必要があります。



ヒント② 車いすに乗っている子どもの座席位置について

最後列の出入り口近く・または真ん中



【メリット】

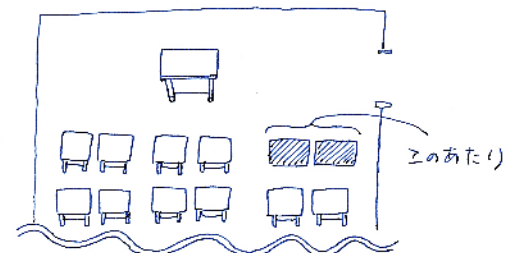
- ・車いすでの出入りがしやすい。
- ・車いすの背もたれで他の子どもの視界を妨げない

【デメリット】

- ・黒板が遠い。見えやすさだけでなく、視線移動に困難があることの多い肢体不自由児にとって不利。
- ・前の子どもで視界が妨げられる。首を伸ばしたり、体を乗りがしたりができないので、見えないままになってしまう。
- ・授業者が、学習の様子を確認しにくい。

整理してみると、他の子どもたちの学習への影響が優先されていて、多少の不便は仕方ない、という印象を受けます。

前の出入り口付近の最前列



【メリット】

- ・うまく調整すれば、後ろの子どもの視界を妨げない。
- ・出入りもそれほど手間ではない。
- ・黒板に近く、見やすい。
- ・授業者が学習の様子や進度を確認しやすい。

【デメリット】

- ・角度的に黒板が見えにくくなる。（黒板の反射は、一番前のカーテンを閉めてることで改善することがあります。）

相談があった学校には、この座席位置も選択肢として検討するようにおすすめしています。

出入り口の段差を埋める 小さなスロープ



2cm位の高さの敷居も車いすの通行には障害になります。ホームセンターで売っていますし、木材で自作している学校もあります。教室の出入りで介助が要らなくなることで、自立した行動を妨げなくて済みます。

教室内の通路の確保



この環境は肢体不自由児だけでなく、他の子どもにとっても安全で過ごしやすい環境になるのではないのでしょうか？

不安定ながら歩いている子どもの場合は、机の間の通路への配慮が必要です。机の横にはプールバッグや給食エプロン、習字セットなどをつってありますが、これらをロッカーにしまうルールがあると通路が広がります。全部でなくても、片方のフックにはつらないように調整してもらえただけでも、移動しやすくなります。

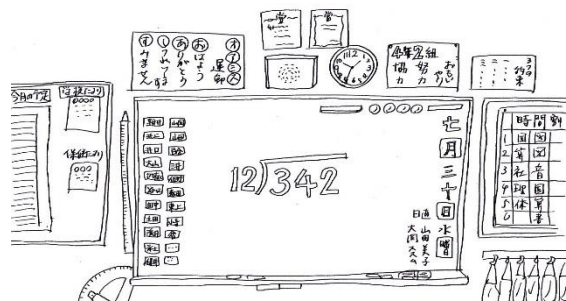
ロッカーの場所は？



手の届きやすい高さのロッカーを割り当てて下さい。例えば、カバンを持ったまま中身の出し入れができず、床でしないといけない子にとっては、ロッカーが一番下が良い、ということになります。

掲示物を貼る位置は？

～「黒板まわりスッキリ」の原則～



肢体不自由児の中には視覚情報の処理に困難さのある子どもが少なくありません。視力だけではなく、例えば、視線をノートと黒板とを行ったり来たりさせることなどが難しいなどです。黒板の周りに掲示物があると、それに視線を誘導されてさらに労力と時間が必要になります。学級目標や時間割など目立つ掲示物は、教室の後面、または側面後方に貼るようにして下さい。

いすや机はどうしたらいい？



詳しくは「2 いす・机について」をご覧ください。児童机では車いすの手すりがある部分に引っかかって十分に近づくことができず大変不便をします。引出し部分を取り外す工夫と、そこで机の併用で解決している学校もあります。養護机を持ち込む場合は、大きさがネックになることもあります。また高価なので複数台購入することが難しいかも知れません。

対応はケースバイケースです。管理職を交えて、どの子にとって
も学びやすい落としどころを探る、ということだと思って下さい。